

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

GPN Green Purchasing Network

## CONTENTS

- REPORT1 グリーン購入フォーラム ..... 1
- REPORT2 グリーン購入セミナー ..... 3
- 『グリーン購入キャンペーン』へのご協力、  
ありがとうございました。 ..... 4
- グリーン購入大賞 受賞者のちょっとひとこと... 5

- エコ情報室「低公害車と自動車税のグリーン化」... 6
- エコに学ぶ ..... 7
- 「田中建材の環境問題への取り組み」田中建材株式会社
- リレートーク「だから今、グリーン購入!」 ..... 8
- 新江州株式会社 プランセル事業部 部長 横田 覚さん

## Report 1 グリーン購入フォーラム

～企業とグリーン・ガバナンス グリーン購入の新たな展望～



- 開催日 2002年11月8日（金）
- 場 所 長浜ドーム宿泊研修館
- 参加者 105名
- 主 催 滋賀グリーン購入ネットワーク
- 後 援 グリーン購入ネットワーク

11月6日から8日にかけて県立長浜ドームにて開催された「びわ湖環境ビジネスメッセ2002」に出展するとともに、協賛事業として「グリーン購入フォーラム」を開催いたしました。

### ◆プログラム

#### 基調講演

「環境ガバナンス～企業社会の挑戦」

#### 事例発表

「TOTO（滋賀工場）のグリーン購入および廃棄物対策の取り組み」

#### パネルディスカッション

「企業とグリーン・ガバナンス～グリーン購入の新たな展望」

#### 基調講演

#### 「環境ガバナンス～企業社会の挑戦」

京都大学大学院 地球環境学堂 教授

松下和夫さん



滋賀GPNはおそらく日本のグリーン購入の分野ではリーダー的存在であり、世界的に見てもこのような活動を地域で行っているところはあまり例がなく、そのような意味で最先端をいくものだと思っています。

かつての産業公害の時代においてガバナンスの主体は政府や地方自治体であり、企業は政府から規制をかけられる受け手でしたが、現在では企業も「企業市民」として「持続可能な社会」を形成する上で、問題を起こす側というより問題を解決する側の一部として活動することが求められています。21世紀に生き残る企業の条件として、企業のグリーンガバナンス（環境経営）が重要視されてきています。

しかし、企業の取り組みの結果が収益や競争力の低下を招くようでは続きません。個人の取り組みも我慢ばかりに終わるのであれば社会の主流にはなり得ません。

自主的な活動が報われる社会システムや市場メカニズムが形成されるためには、行政がいかにして市民の後押しを得ながら、環境保全型の市場経済の形成につながるような税制改革なり、財政システムを作り上げていくかにかかっています。

日本において今後期待されることは、環境への取り組みを地域と共に進め、新しい環境技術・環境システムの社会モデルを、より多くの関係者と一緒に「日本モデル」として発信していくことではないかと思います。

（滋賀GPNホームページにて、講演内容の詳細を公開しています。）

URL <http://www.shigagpn.gr.jp/>

## 事例発表 TOTO(滋賀工場)のグリーン購入および廃棄物対策の取り組み



東陶機器株式会社滋賀工場  
総務グループリーダー  
**伊藤 健二さん**

節水に代表される環境配慮商品の開発に取り組んでおられるTOTOでは、「地球資源が有効に活用、循環される『商品づくり』『企業経営』『社会システムの形成』に努力する」ことを「TOTO地球環境方針」の理念として挙げられ、グリーン購入や廃棄物対策に取り組んでおられます。また、環境にやさしい部材を調達するために、取引先の評価・選定も行われています。

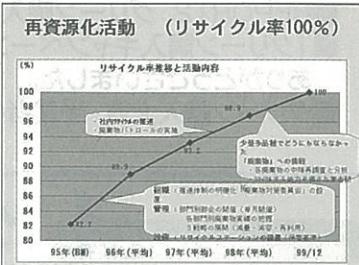
(滋賀GPNホームページにて、内容の詳細を公開しています)

「TOTOでのグリーン購入基準」

取引先の評価・選定	
評価基準 (ランク)	評価結果
A	取引先はISO14001を取得。 環境活動評議会に参加する。 評議会による評議結果、TOTOの点満点に近い。80点以上を越えております。
B	ISO14001を取得。 環境活動評議会に参加する。 評議会による評議結果、TOTOの点満点に近い。80点以上を越えております。
C	ISO14001を取得。 環境活動評議会に参加する。 評議会による評議結果が、取引先としては不適切であり、C: C-100点満点に近い。40点未満等の評議以前の問題として選定対象から外れる場合

購入品の評価・選定	
評価基準	TOTOでのグリーン購入基準
製品	TOTOでのグリーン購入基準適合
コピーア用紙	古紙100%、白度70%以下
名刺	古紙60%以上、白色度80%以下
封筒	古紙60%以上
CD-R	古紙60%以上
トナーカートリッジ	古紙60%以上
オフィス家具	使用後に分離して集めリサイクルがしやすいこと
日用品	使用後に分離して集めリサイクルがしやすいこと
化粧品	使用後に分離して集めリサイクルがしやすいこと
金具類	化粧品、合成樹脂の放出がないこと
包装材	再生材料を使用していること(100%)

「再資源化活動」



## パネルディスカッション 企業とグリーン・ガバナンス～グリーン購入の新たな展望

社会をサステイナブル（持続可能）なものに変えていくために企業のグリーン・ガバナンス度が問われる今、私たちにできることは何か。

パネリストの皆さんに作る側、売る側、買う側の立場で、話し合っていただきました。

コーディネーター：土屋正春 滋賀県立大学環境科学部 教授

パネリスト：伊藤健二さん

西塚哲夫 株式会社平和堂 環境推進室  
藤井絢子 滋賀県環境生活協同組合 理事長  
松下和夫 京都大学大学院 教授

松下 E Uでは、地域から出た新しい動きを制度的に助成・支援していくシステムが出来ているように思う。日本ではなかなか導入されない環境税や排出量取引などもイギリスではいち早く取り入れられている。一般市民が環境問題についてはっきり認識しており、そのような政治を支える姿勢いることが大きく影響していると思われる。

伊藤 環境負荷を減らすために、商品の長寿命化を図るように努力している。ウォシュレットと給湯機のリサイクルの研究も始めていいが、家電製品のように法制化がされていない現状で一社だけでは難しいので、業界として取り組めるように方向づけを進めている。

西塚 流通業は、調達面での役割

以外にグリーン商品を一般社会に広げていくという重要な役割を担っているが、コマーシャル力のある大手メーカーの洗剤が100個売れるとしたら、粉石けんは1個程度なのが現状。この現状に挑戦する試みとして、平和堂では環境生協と一緒に消費者の目で選んだ環境商品「エコナビ商品」のコーナーを7店舗で設けているが、売れ行きの点では今一歩。まずはある程度環境に配慮されていて、そこそこ売れるようなものを販売することで、消費者に環境について関心を持ってもらいたい。

藤井 グリーンサプライヤーが伸びてこないのは商品だけの問題ではなく、日本の税制などを含めた社会的な仕組みができていないところにあると思う。日本でもヨーロッパのように環境に関する様々

な認証制度を作り、消費者が店や商品を選ぶ際に見えやすくしていく必要がある。

土屋 メーカーにせよ、流通にせよ社会へのサプライヤーとしての責任があり、近年特にその責任が重くなっている。環境に熱心に取り組もうとする企業の努力を社会で評価し、支えていく仕組みがないと、このような運動にも限界が出てくる。



## Report 2 グリーン購入セミナー開催

### 第1回グリーン購入セミナー（評価手法研究会 第1回研修会）

- ◆日時 2002年7月25日（木）
- ◆内容 「滋賀県グリーン購入基本方針」  
講師／滋賀県環境政策課主任主事 内田博幸さん
- 「グリーン購入取り組みガイドンス」  
講師／グリーン購入ネットワーク事務局 富澤享子さん
- ◆参加人数 62名



### 「研修会に参加して」 東レ・ファインケミカル株式会社 総務課 湖胡一樹さん

弊社は昨年ISO14001を取得しました。今回セミナー参加の機会を得て、受講するまでは社内で取り組んでいるISO14001と同様のものではないか？と思っていました。しかし受講してみると、やる気になれば大人から子供まで取り組む事もできるし、製造・販売者と購入者が一体となって環境に配慮しなければならない一つの巨大イベントだと感じました。対象としては、企業が大きなウエイトを占めるのですが、自身も日常生活の中で取

り組んで行こうと思います。個人ではできることはされていますが、グリーン購入の意識を持つ事が大切であり、周りの人達にも積極的にPRしていくつもりです。

最後になりますが、この様な内容のセミナーにはできるだけ多くの人に参加してもらえる様に工夫していただき、早くグリーン購入が全国に定着する事を願っています。

### 第2回グリーン購入セミナー（評価手法研究会 第2回研修会）

- ◆日時 2002年9月6日（金）
- ◆内容 「環境と調和を目指す企業の取り組み」  
講師／日本電気株式会社 エグゼクティブ・エキスパート 山口耕二さん
- ◆参加人数 52名



今回の研修会は、講演後に参加者からの質問を基にしたディスカッションもあり、日々現場に携わる者にとっては、生の意見が拝聴でき有意義な研修でした。

特に近年ISO取得が目立ちますが、取得方法についてもネットEMS（インターネットを活用した「低コスト」「短期間」）の紹介もあり、これこそ今後の環境問題へのあり方を示しているかもしれません。つまり、ISO取得はあくまでも環境への取組みのツールであり、効果を出すには取

得時の無駄を省いた取り入れ方、取得後の活動の公開など工夫が必要だとも思いました。私たちを取り巻く環境下から無駄を省けば、自ずと守るべき環境が見えてくるはずですし、また結果的にそこから製品開発のヒントなどビジネスチャンスにも繋がると思います。

社会のステータスが変化していることを更に痛感し、既にもう環境イメージが企業のブランドイメージ、個人のプライドになっていると感じる研修内容でした。

### 第3回グリーン購入セミナー（食のグリーン購入研究会 第2回研修会）

- ◆日時 2002年11月28日（木）
- ◆内容 「環境から見た食の選択～環境食品学の試み」  
講師／滋賀県立大学環境科学部教授 奥野長晴さん  
「滋賀県環境こだわり農産物とグリーン購入」  
講師／滋賀県農産流通課主査 森野真さん
- ◆参加人数 27名



### 「研修会に参加して」 土建材株式会社 専務取締役 広瀬節雄さん

食は人間にとってかかせません。エネルギーコストの少ない食材選択や滋賀県の進める「環境こだわり農産物」など、食を通して見た環境について興味深く聴講できました。

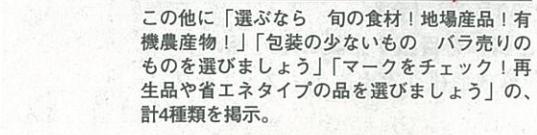
当社では木炭・竹炭の製造をしているのですが、炭にはミネラル成分が含まれ、バクテリアの分裂促進、活性化で土壤を蘇らせる作用があります。

作物の連作時にミネラル補給によって、農作物に有害な菌の繁殖抑制効果もあります。

セミナー受講を機に、一層「環境こだわり農産物」の一翼を担いたいと思います。

# 『グリーン購入キャンペーン』へのご協力、ありがとうございました。

## ★啓発ポスター、ポップの掲示



会員の皆さんにポスターを配布し、掲示をお願いしました。県内のスーパー・小売店にてポスターやポップを掲示していました。

## ★店頭啓発キャンペーンの実施

滋賀県の「マイバッグキャンペーン」とタイアップして、滋賀県小売店環境保全連絡会のご協力により、県内のスーパー・小売店で消費者への啓発品の配布およびアンケート調査等を行う、店頭啓発を実施いたしました。



## グリーン購入シンポジウムの開催

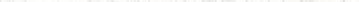
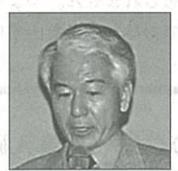
キャンペーンの一環として、滋賀県工業技術総合センターとの共催で「グリーン購入シンポジウム」を開催いたしました。当日、会場ロビーにおいて「環境配慮型商品展示会」を同時開催いたしました。

### グリーン購入シンポジウム「エコプロダクツマーケットの創造に向けて」

- ◆日時 2002年10月8日(火)
- ◆場所 滋賀県庁 新館7階大会議室
- ◆内容

#### 基調講演1.「循環型社会構築のためのエコプロダクツ」

講師／講師：東京大学 生産技術研究所 教授 安井至さん  
理事・環境委員会委員長 辰巳菊子さん



#### 基調講演2.「消費者から見たエコプロダクツ」

講師／講師：(社)日本消費生活アドバイサー・コンサルタント協会 理事・環境委員会委員長 辰巳菊子さん



#### パネルディスカッション「エコプロダクツマーケットの創造に向けて」

- コーディネーター：安井至さん  
パネリスト：辰巳菊子さん  
保坂直人さん キリンビール(株)滋賀工場 副工場長兼環境室長  
廣部徳久さん 長浜キヤノン(株)SA部調達課課長代理  
◆参加人数 150名



[出展協力企業]  
(有)オーヤ企画、キリンビール(株)、  
コクヨ近畿販売(株)、(株)シガ建装、  
昭和電工(株)・昭和アルミニウム缶(株)、  
田中建材(株)、(有)ツイキコーポレーション、  
土田建材、竹菱電機(株)、トラヤ商事(株)  
(順不同)  
出展にご協力いただいた皆様、  
ありがとうございました!

滋賀グリーン購入ネットワークでは今年度より10月を「グリーン購入キャンペーン月間」と定め、会員である企業や団体の実践促進を図るだけでなく、一般消費者への啓発をも目的としたキャンペーンを展開いたしました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

## ★啓発パネルの展示

下記の4店舗に展示コーナーの設置にご協力いただき、啓発パネルの展示を行いました。

「グリーン購入啓発パネル展示実施店舗」
10月3~9日 アヤハディオ大津店
10月10~14日 ピバシティ平和堂
10月18~23日 ヒカリ屋瀬田店
10月25~31日 コープせせらぎ



## ★広報誌への掲載

行政会員の皆さんに呼びかけ、広報誌に関連記事を掲載していただきました。

## 油藤商事株式会社

「売り手よし・買い手よし・世間よし」の「三方よし」は有名な近江商人の言葉です。

この「三方よし」を私の店ではどのように展開しているかご紹介します。

まず、売り手。スタッフは普段から石油類にさわり慣れているので、廃食油等の廃油を取り扱うことが苦痛にならず、空き缶や乾電池などは給油時に回収するため、仕事量もさほど増えない。廃タイヤ回収などは自社の既存ルートを活用するので、新規開拓などの金銭・労力の両面から負担にならない。つまり事業者に負担にならない活動 = 「売り手よし」です。

次に消費者である買い手。空き缶等のゴミの回収日は決まっていますが、近所の方々はガソリン給油のついでに持つて来ることができます。また、行政の回収ルートには存在しない廃タイヤや廃バッテリーなども低費用で処理でき、消費者の負担が軽くなり、まさしく「買い手よし」につながっていきます。

「売り手よし・買い手よし」というこの活動が、資源の回収・有効利用、行政のコスト削減など世間(社会)にもいいものです。「世間よし」となればそれは循環型社会の形成につながってきます。

ガソリンスタンドは、地域循環型社会にとって非常に大きな可能性を持っています。今後の抱負としてはバイオディーゼル燃料の販売拡大と、このようなエコステーションを他のガソリンスタンドにも広げていきたいですね。

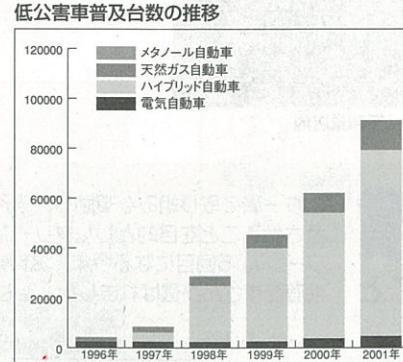
# エコ情報室

## 「低公害車と自動車税のグリーン化」

わが国の自動車保有台数は750万台を突破し、2人に1台以上の割合で車を保有していることになります。車は便利な道具ですが、排出ガスによる大気汚染問題、燃料消費に伴う二酸化炭素排出による地球温暖化問題など、環境に大きな影響を与えています。街にきれいな空気を取り戻し、地球環境を守るために、低公害車の普及が強く期待されています。

### ■低公害車の普及状況

低公害車の普及を促進するため、国などの購入費補助や税制の優遇措置などの施策が拡大はじめています。また、国では率先して大量導入を図るため、2004年度までにすべての一般公用車（約7千台）を低公害車に切り替える方針を決定しています。



低公害車の普及台数 (2002年3月末)		
	全国の普及台数	滋賀県内の普及台数
メタノール自動車	135	0
天然ガス自動車	12,012	20
ハイブリッド自動車	74,600	896
電気自動車	4,700	9
合計	91,447	925

### ■滋賀県内の2か所にエコストーション(CNGスタンド)オープン

滋賀県内には、これまでCNG(天然ガス)の供給スタンドはありませんでしたが、昨年、大津市と草津市にCNGスタンドが設置されました。

- 大津エコストーション 大津市富士見台5-9
- 草津エコストーション 草津市木川町319

### 天然ガス(CNG)自動車

天然ガスの主成分は化石燃料の中で最もCO<sub>2</sub>排出量が少ないメタンです。気体燃料のため1回の燃料充填で走れる距離が短いのが難点ですが、スタンド設置により、今後県内での導入促進が期待されます。



### ■燃料電池自動車の実用化

2002年12月、内閣総理大臣官邸、経済産業省、環境省と国土交通省に燃料電池自動車各1台が納入されました。

### 燃料電池自動車

水素などを化学反応させて発電し、電気で走る自動車です。窒素酸化物や二酸化炭素などの排出ガスが全くないという特徴を持ち、次世代の低公害車として有力視されています。

### ■2003年度自動車環境関係税制について

低燃費車、低公害車の普及を促進するため環境負荷の少ない自動車には税を軽減し、逆に環境負荷の大きい自動車には税を重くする「自動車税のグリーン化」が始まっています。

2003年度(平成15年度)からは優遇措置の対象が「☆☆☆かつ低燃費車」(注参照)に重点化され、LPG自動車が対象に追加されます。

### 自動車税

●☆☆☆かつ低燃費車(LPG車含む)・電気自動車・天然ガス車・メタノール車・燃料電池自動車	→ 50%軽減 (2003年度新車登録車について、2004年度分を軽減)
●車齢11年超のディーゼル車及び車齢13年超のガソリン車	→ 10%重課

### 自動車取得税(事業用は取得価格の3%、自家用は5%)

●☆☆☆かつ低燃費車(LPG車を含む)	→ 取得価格から30万円控除 (2003年度取得車対象)
●ハイブリッド乗用車	→ 2.2%軽減 (2003、2004年度取得車対象)
●電気自動車・天然ガス車・メタノール車・ハイブリッド車(バス・トラック)・燃料電池自動車	→ 2.7%軽減 (2003、2004年度取得車対象)

※今回の改正により、2003年度においては☆☆かつ低燃費車及び☆かつ低燃費車は、自動車税、自動車取得税ともに軽減の対象外となります。

注) ☆☆☆、☆☆、☆とは、最新排出ガス規制値を75%、50%、25%低減した低排出ガス認定車。

〔参考資料〕 国土交通省ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>  
(社)日本自動車工業会発行「クリーンエネルギー車ガイドブック2002」

## エコに学べ!

田中建材株式会社 専務取締役 田中 稔さん

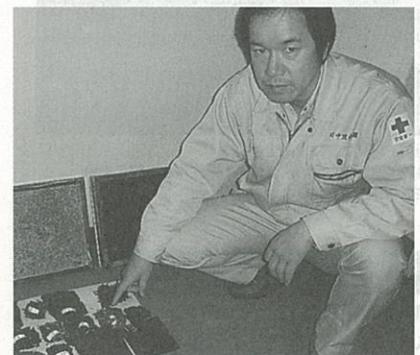


### 「田中建材の環境問題への取り組み」

企業活動を通じ、共に働く人が進化し成長することが企業や地域を発展させ、社会や個人の豊かさにこたえることと考え、日々努力を続けてまいりました。

私どもは建設業に携わる中で、廃棄されるコンクリートや木材のリサイクルに取り組んでいます。

「コンクリート」を「再生碎石」として利用し、廃木材はパーティクルボードと呼ばれる再生合板の原料として出荷する一方、解体廃木材の利用としてエコマーク認定の有機肥料、さらに「日本で初めて」認めていただいた「解体廃材100%有機肥料」への再生に取り



「開発中の木質アスファルト舗装」

組んでいます。

解体廃材には有害物質が混入する可能性が高いのですが、それを防ぎ、安定した品質を確保するためには、徹底的な分別解体とできた製品の入念な環境面の検査がかかりません。しかし、そのような製品を作り出しても他の品質のもとの全く区別が付かず、努力の割に社会に認めていただきにくいのが現実です。

新しい取り組みとしては、「中小企業創造活動促進法の認定」と「環境省の次世代廃棄物処理技術基盤整備事業」の補助金をいただき、「加熱アスファルトによる木質舗装を開発」しています。従来は樹脂による方法が主流でしたが、この方法により価格を半分ぐらいまで下げられると考えています。

新たな技術であるだけに、行政や一般に認めていただくには多くの課題があることを目の当たりに感じています。実績がないため、競争相手がないために、新技术の開発というのは先が見えにくいためです。

環境問題は、私たち企業や個人に与えられた試練だと考えています。

これを乗り越えるためには、技術はもちろん、多くの時間とお金が必要になるかもしれません。

しかしそれ以上に重要なことは、社会を構成する人々の心のあり方です。環境問題の重大性を理解できる人の心を育てることだと思います。

田中建材では環境問題への取り組みを強化するためにISO14001認証を取得し、県のエコスター制度の認定もいただき、月1回程度ですが会社前の道を全社員で清掃しています。

当社の活動に関心のある方は、ぜひご連絡ください。

お問い合わせ 田中建材株式会社  
TEL:0740-22-0217 FAX:0740-22-1349  
Email: kaihatu@tanakakenzai.co.jp  
URL: <http://www.tanakakenzai.co.jp>

### ◆2002年度活動報告(2003年1月末現在)

4.22 第9回幹事会	9. 2 第2回機密書類処理方法研究会企画会議
4.29 「草津宿場400年祭・第34回草津宿場まつり」協賛参加	9. 6 第2回グリーン購入セミナー
5.28 2002年度通常総会	(評価手法研究会 第2回研修会)
6. 5 食のグリーン購入研究会 第1回研修会	9. 6 第7回評価手法研究会企画会議
6. 7 第4回評価手法研究会企画会議	評価手法研究会 アンケート調査実施
6.19 機密書類処理方法研究会 第3回研修会	9.17 第3回機密書類処理方法研究会企画会議
6.20 第10回幹事会	「エコどこナビ滋賀」開設
7.14 「ひのねエコフェスタ2002」協賛参加	10~10月 グリーン購入キャンペーン
7.16 自治体のグリーン購入研究会 アンケート調査実施	10. 8 グリーン購入シンポジウム
7.25 第1回グリーン購入セミナー	10. 9 第4回機密書類処理方法研究会企画会議
(評価手法研究会 第1回研修会)	10.18 第12回幹事会
8. 7 第1回機密書類処理方法研究会企画会議	平成14年度第1回自治体のグリーン購入研究会研修会
8. 8 「びわこまつり」出展	10.20 「かんでんガレージセールin愛知川」出展
8.23 第11回幹事会	10.30 第8回評価手法研究会企画会議
(評価手法研究会 第1回研修会)	11. 2 「湖東地域エコトビア体験フォーラム」協賛参加
11. 6 第6回評価手法研究会企画会議	11.6~8 「びわ湖環境ビジネスメッセ2002」出展

2003年

1.16 第11回評価手法研究会企画会議
1.31 平成14年度第2回自治体のグリーン購入研究会研修会
第4回グリーン購入セミナー

(評価手法研究会 第3回研修会)

# リレートーク

## Relay Talk 「だから今、グリーン購入！」



新江州株式会社  
プランセル事業部 部長  
横田 覚さん

### 全てがグリーン商品になる日を願って

新江州株式会社は15年ほど前から「あおいな事業部」を創設し、地球環境問題を考えてまいりました。「あおいな」の語源は宇宙飛行士の言葉、「地球は青かった」からとっています。

新江州は紙の販売から始まった会社です。もともと紙は環境に対しては優等生だと思っておりましたが、森林資源問題、ゴミ問題などで一時は環境の悪者にされていました。しかし、紙はリサイクル可能な資源です。現在でも使用量の60%はもう一度紙の材料として再使用されています。我社の扱い商品は包装材料、建築養生資材、紙製品が主です。いずれも、比較的短い周期で廃棄されるものが多いため、使用後の処理問題、資源問題を考えたとき、このまま現在使用されている商品を使い続けること

はいずれ限界が来ると考え、7年前に「物流・包装エコロジー情報館」を開設いたしました。ここでは環境にやさしい商品を展示して、これから環境対応の物流や包装の情報受発信の基地的役割を果たすことを目的に活動しております。

この情報館は企業の皆様との情報交換の場にと考えておりましたが、滋賀県の環境学習施設として紹介され、それ以後、消費者グループ、学校、諸団体の学習見学が増えてきて、供給者側からの情報だけではなく、消費者側からも貴重な情報をいただけるようになりました。少しは、環境問題への啓蒙、教育にお役に立てていると考えております。

新江州では、グリーン購入・調達という言葉が一般化する前から環境配慮商品の普及、使用に尽力

しておりましたが、一昨年にISO14001の認証を得たのを機に、事務用品、紙製品を中心としたグリーン商品の使用および販売に、より一層の努力をしております。

消費者が購入するものが全て環境配慮商品になる日が、一日でも早く到来することを願って、今後も微力ながら頑張りたいと思います。

次回はダイキン工業さんにお願いします。



物流・包装エコロジー情報館  
滋賀県蒲生郡日野町奥之池6-9 新江州株日野工場内  
TEL: 0748-53-1200

### お知らせ

皆さんに支えられて設立4年目を迎えた滋賀GPN。今後のさらなる発展を目指し、皆様の貴重なご意見を賜りたいと思っております。来年度の事業に関する企画のご提案等がございましたら、EメールまたはFAXにて事務局までお寄せください。ニュースレター、メルマガへのご投稿も、随時受付けております。滋賀GPNでは、新年度に向けて新規入会会員を募集しております。入会案内、啓発パンフレット等がご入用の際は、事務局までご相談ください。「環境」は21世紀のキーワードです。地球環境を守る有効な手段である「グリーン購入」を広げるために、ネットワークの拡大にご協力ください。

### 新規入会会員

2002年7月1日～2003年1月10日

株式会社松田安太郎商店	山室木材工業株式会社
株式会社シンエー	辻茶道教室
財務省印刷局彦根工場	株式会社川源
パシフィック技研株式会社	タカミネ産業株式会社

現会員数：366（2003年1月10日現在）  
(企業278、行政56、非営利団体32)

### 編集・発行／滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

〒520-0044  
滋賀県大津市京町三丁目4-22 滋賀会館1階  
社団法人滋賀県環境保全協会内  
TEL.077-510-3585 FAX.077-510-3586  
E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

### デザイン／うーぴ企画 印刷／AINZ株式会社

このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。  
用 紙：古紙配合率100%、白色度70%「OKプリンス上質エコG100」（王子製紙）  
インキ：レベル2に該当する植物油含有量20%以上「TKハイエコ-SOYシリーズ」（東洋インキ）

